

京都府流域下水道事業経営審議会第5回投資部会開催結果 (宇治田原町公共下水道の流域下水道への編入について)

令和6年10月31日に、京都府流域下水道事業経営審議会の投資部会(経営審議会会長、部会長ともに田中宏明 京都大学名誉教授)を開催しました。

概要は下記のとおりです。

※ 京都府流域下水道事業経営審議会は、事業の方針その他の流域下水道事業の経営等に関する重要事項について調査審議する審議会です。京都府は、この結果も踏まえて流域下水道事業経営戦略を立案・見直します。

投資部会は、経営審議会で行う調査審議のうち、施設・設備への投資の見通しに関し、専門的に調査審議する部会です。「宇治田原町公共下水道の流域編入」については、流域編入にあたり幹線管渠の敷設および既存ポンプ設備の能力増強が必要であり、この投資の妥当性(流域編入の有効性・流域下水道事業への影響評価)の検証は、施設・設備への投資の見通しに関する専門的事項であることから、投資部会において調査審議します。

記

- 1 日 時 令和6年10月31日(木) 午前9時00分から10時15分まで
- 2 場 所 京都ガーデンパレス 2階 祇園
- 3 出席者 「京都府流域下水道事業経営審議会・投資部会」委員
田中部会長、川池委員、西垣委員、藤木委員 (5名中4名出席)
※中筋委員は都合により御欠席(事前説明を実施)
事務局(京都府)
西村建設交通部技監、曾和公営企業管理監兼副部長、
西崎公営企業経営課長、工藤下水道政策課長、
高橋下水道政策課参事、吉本流域下水道事務所長 他

4 審議事項

- 宇治田原町公共下水道の流域下水道への編入について
 - 経営的な観点による「編入による影響評価の妥当性」について審議・評価
 - ・ 流域構成市町・宇治田原町それぞれの経済的なメリットについて
 - ・ 現行の投資計画への影響について
 - ・ その他、環境負荷の低減等について

5 審議結果

○ 編入を実施する意義は高く、流域下水道事業における経営上の影響に係る検証内容も妥当

※事前説明を行った中筋委員からも同様の意見を得ています。

- 流域構成市町・宇治田原町それぞれの経済的なメリットについて、確認いただいた。
 - ・ 宇治田原町では、単独公共下水道維持の場合と比較して維持管理コストや町終末処理場等の改築更新費用を削減でき、負担が軽減（ $\Delta 4.1$ 億円）
 - ・ 城陽市では、管渠を宇治田原町と共同使用することで、市で整備するよりも管渠整備コストが減少し負担が軽減（ $\Delta 16.7$ 億円）
 - ・ 流域構成市町では、流域編入によって維持管理費や資本費の負担が生じるものの、宇治田原町・城陽市からの流入水量増加による維持管理負担金（収入）の増が上回ることから、負担軽減（ $\Delta 6.1$ 億円）
- 現行の投資計画への影響
 - ・ 事業実施計画を見直し、流域下水道事業全体の投資計画を平準化することで、現行の経営戦略における「府・市町の投資計画」に悪影響がないことを確認いただいた。
- その他のメリット
 - ・ 環境負荷の低減や脱炭素化の推進など複数のメリットが見込まれることから、流域編入を実施する意義は高いことを確認いただいた。

○ 委員の意見を踏まえ、府において流域編入、及びこれに付随する整備事業の方針を検討

6 附帯意見

○ 雨天時侵入水対策について、流域に接続した後も宇治田原町が引続き実施し、その意識を関連公共下水道内でも共有されたい。

（事務局回答） 雨水の侵入は流域全体の課題として捉えている。なかなか効果的な方法がない中で、宇治田原町の対応実績などがあれば共有し、意識の向上に役立てたい。

○ 下水道整備が進展した現在では、府や流域構成市町で各々の立場や事情の違いから利害の不一致が生じることがある。課題解決にあたっては、府として今回のような流域市町にメリットのある広域化の取り組みを進めてきたことも示しつつ、調整を図られたい。

（事務局回答） 今回の広域化の取組を進める中で、流域内外の市町の課題・様々な意見を得られた。ご意見を踏まえて、今後の事業展開に活かす努力をしてまいりたい。